

公開実用 昭和60— 176188

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭60— 176188

⑬ Int.Cl.

G 04 B 45/04

識別記号

庁内整理番号

7027-2F

⑭ 公開 昭和60年(1985)11月21日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 時 計

⑯ 実 願 昭59-64512

⑰ 出 願 昭59(1984)5月1日

⑱ 考 案 者 奥 田 博 二 大阪市北区紅梅町5番13号 株式会社プロジェクト二千一
内

⑲ 出 願 人 株式会社 プロジェク 大阪市北区紅梅町5番13号
ト二千一

明細書の浄書(内容に変更なし)

明 細 書

1. 考案の名称 時計
2. 実用新案登録請求の範囲

時、分針を表示した2枚の透明板の外周をスプロケットとした時計において、時刻表示部と駆動装置部の台との間を細長い管状の脚にて連結し、該細管の内部をチェーン、Vベルト等で伝達することを特長とする時計。

3. 考案の詳細な説明

この考案はファッション性の高い時計に関するものである。

従来の時計は、文字盤の中心において時、分、秒針を動かすものが一般的で、文字盤が不透明であり、仮りに透明であつても駆動機構によつて文字盤の背後を十分に見通すことが出来ない。

この考案の目的は、以上の点に留意し、時刻表示部の背後を十分に見通すことが出来るうえに、時刻表示部と駆動装置部の間隔を延すことの出来る時計を提供することにある。

この目的を達成するため、この考案にあつては

、2枚の透明板をその中心を軸として回転可能に支持し、この透明板の回転外周に対向して時刻表示を設けるとともに、透明板の一方に時針に対応する表示印を、他方に分針に対応する表示印をそれぞれ設け、1時間で一方の透明板を1/12又は1/24回転、他方の透明板を1回転させる駆動装置を備えたものである。

この様に構成し、駆動装置により両透明板を時間通りに回転させれば、両透明板の時・分表示印と透明板外周の時刻表示との対応により時刻が表示される。

次に時刻表示部と駆動装置部の間を細長い管にて連結し、該細管の内部をチェーン、Vベルト等で伝達すれば、透明板で時刻表示部の背後を十分に見通すことの出来る今までになかった斬新なデザインの時計とすることが出来る上に、時刻表示部と駆動装置部を離すことにより、スタンド形式の他に、突出し、吊下げ等の取付けが可能となり、生活に潤い及び楽しみなどを与える効果がある。

以下、この考案の実施例を添付図面に基いて説明する。

第1図に示す実施例は、4枚の透明な円板1、2、3、4により時刻表示部が構成され、両側の板1、4が支持枠の役目を果し、両側円板1、4の下端が管状脚5の上端に固定されている。両側円板1、4はその間の円板2、3が回転し得る間隔をもつてシャフト6により支持され、このシャフト6に設けたベアリングなどにより間の円板2、3をその中心で回転可能に支持する。

両側円板1、4間の一方の円板2に時針に対応する表示印7を、他方の円板3に分針に対応する表示印8をそれぞれ設ける。表示部7、8には種々の形状のものが考えられ、例えば図示の如く先端のみに針形状とする。

円板2、3の回転外周に対応して時刻表示9を設け、この表示9は例えば第1図の如く点でもよい。これらの表示9と表示印7、8の関係で時刻が示される。

脚5の下端は台10が設けられ、この台10内

に時計本来の駆動部を収める。この駆動部と円板 2、3 との連結は種々の構造が考えられる。例えば、第 2 図に示すように円板 2、3 の外周をピッチの小さいスプロケットとし、時刻表示部枠 11 の下部に取り付けた 2 組のローラー 12 と、駆動装置部台 10 の内部にある時、分針軸 13 に嵌められた 2 組のスプロケット 14 を 2 本のチェーン 15 により連結する。この時必要に応じてはローラー 12 をスプロケット 14 の上部に追加して設けても良いが、脚 5 の管中にチェーン 15 が収まる様に寸法を決める。

実施例と類似の方法によつて V ベルト等でも動かせる。

既製の時計機構を駆動部とする場合には、円板 2、3 及び、下部の各スプロケット 14 の各歯数比により、予め両軸を増減速しておく必要があり、分、秒針用の駆動軸を時、分針に伝達した方が容易な場合がある。例えば分針軸から時計針に伝達するには、上下スプロケットの歯数比を $12/1$ にすればよく、秒針軸から分針に伝達するには、

予め $1/5$ に減速した後 $12/1$ の歯数比にて伝達すれば良い訳である。

上記実施例においては、円板 2、3 の外周縁でもつて回転させる様にしたので、時刻表示部の背後に不透明なものが何もないこととなり、見通しがすこぶるよい上に、管状脚により時刻表示部と駆動装置部が分離されているので、スタンド形式とした場合に、高さ調節が可能となる他、壁又は柱から水平方向に突出せるとか、天井から吊下げることにも出来るので、変化に富んだ取付が可能である。



4. 図面の簡単な説明

第 1 図はこの考案の時計の実施例の正面図、第 2 図は第 1 図の内部駆動部分の正面図。

1、2、3、4 は円板

5 は脚

6 はシャフト

7 は表示印（時針）

8 は表示印（分針）

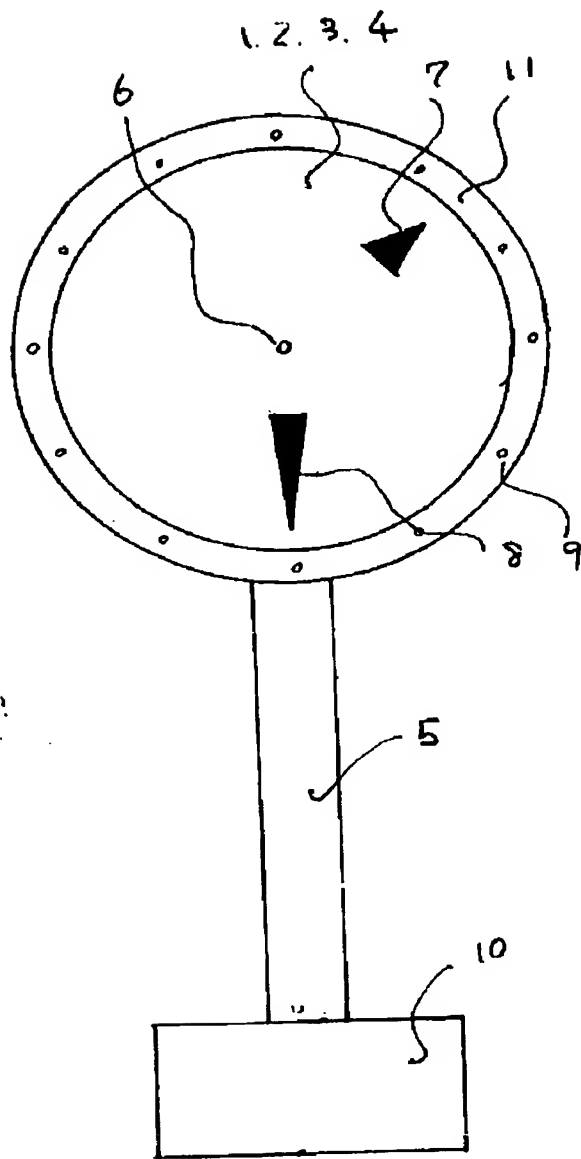
9 は時刻表示

- 1 0 は 台
- 1 1 は 枠
- 1 2 は ロ ー ラ ー
- 1 3 は シ ャ フ ト
- 1 4 は ス プ ロ ケ ッ ト
- 1 5 は チ ェ イ ン

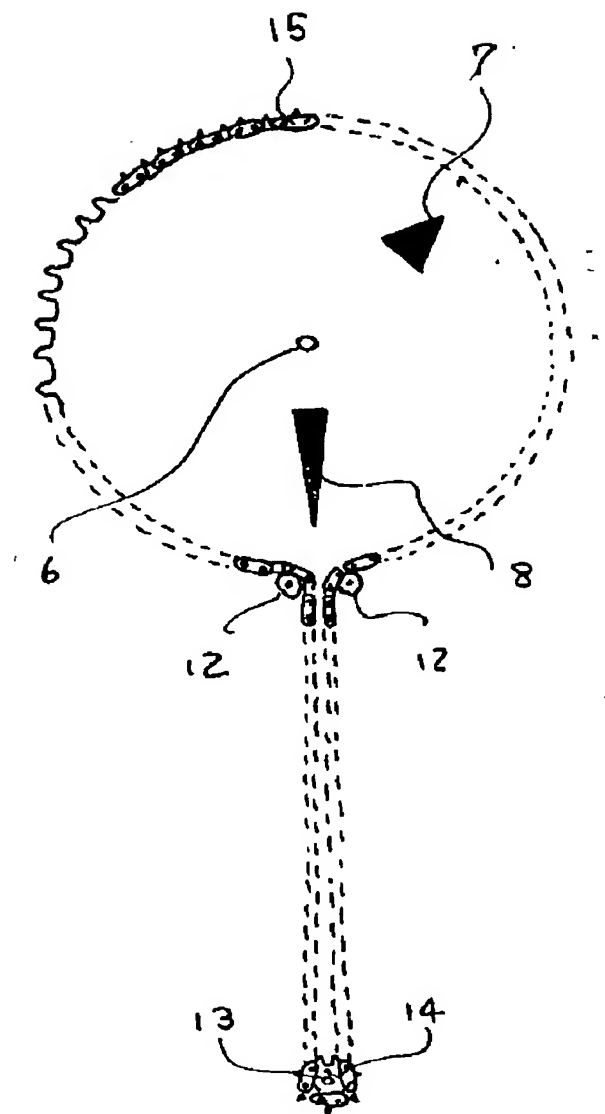


実用新案登録出願人 株式会社 プロジェクト二千一

第1図



第2図



実用新案登録出願人 株式会社プロジェクト=4-

900

実開60-176188

手続補正書

昭和59年8月23日

特許庁長官

殿 適

- 1 事件の表示 昭和59年 実用新案登録願第64512号
- 2 考案の名称 時計
- 3 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住所(居所) ^{オウコウバヤウ} 大阪市北区系上梅町5番13号

氏名(名称) 株式会社 プロジェクトニキー
代表者 石田 翠一

4 補正命令の日附 昭和59年7月24日

5 補正の対象

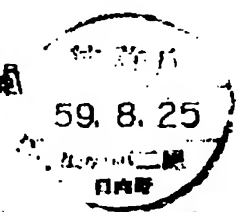
1. 願書の出願人の欄

2. 明細書本文

6 補正の内容

1. 別紙のとおり

2. 願書に最初に添付した明細書の
浄書、別紙のとおり(内容
に変更なし)



THIS PAGE BLANK (USPTO)